

試算表における「印刷行数」と「要約科目数」

< 勘定奉行シリーズ全般 >

概要

合計残高試算表で、要約印刷を行うには、「要約設定」と「見出し項目設定」において、あらかじめ設定を行っておく必要があります。

本資料では、合計残高試算表における「印刷行数」と「要約科目数」について、説明します。

見出し項目設定について

合計残高試算表で要約印刷を行うと、「貸借対照表」で1ページ、「損益計算書」と「製造原価報告書」で1ページで印刷されます。それぞれの帳票を1ページに収めるために、行数を調節するのが、[見出し項目設定]メニューです。

また、[見出し項目設定]メニューでは、上記帳票に印刷する見出し項目、及び計科目の名称の変更も行うことができます。

画面の見方

[日常処理1]-[合計残高試算表]-[見出し項目設定]メニューを開きます。

本資料で説明する「印刷行数」とは、この部分のことを指します。

本資料で説明する「要約科目数」とは、この部分のことを指します。

見出し項目名	印刷行数	要約科目数
当座資産計	7行	4
資産の部	-	-
流動資産	-	-
現金	1	1
預金	1	1
現金預金計	-	-
当座資産計	7	4
棚卸資産計	6	5
その他流動資産計	12	9
流動資産計	2	1
固定資産	-	-
有形固定資産計	11	9
無形固定資産計	3	2
投資等計	9	6
固定資産計	-	-
繰延資産計	2	2
資産の部合計	-	-
負債の部	-	-
流動負債	-	-
流動負債計	19	19
固定負債	-	-
固定負債計	6	6

印刷行数	参照
《貸借対照表》	
資産 54	負債 27
	資本 10
	内訳 18
固定行数 12	
合計 66	66
《損益計算書》	
経常損益 56	特別損益 9
	未処分等 6
固定行数 10	
小計 66	22
	製造原価 96
	固定行数 8
合計 66	66
1頁当たり	最大行数 66

各項目ごとの印刷行数と要約科目数の関係

[見出し項目設定] メニューでは、各項目ごとに、印刷行数を設定することができます。

「要約科目数」とは、その項目に属する要約科目の数を表しています。

現預金内訳	貸借
見出し項目名	印刷行数
当座資産計	7 行
	要約科目数
	4

この場合、「当座資産計」項目に属している要約科目は、現在は「4つ」です。

「印刷行数」とは、その項目に属する要約科目を印刷する行数を表しています。

現預金内訳	貸借
見出し項目名	印刷行数
当座資産計	7 行
	要約科目数
	4

この場合、「当座資産計」項目には、印刷する行を「7行」用意しています。

上記の設定の場合、実際の印刷物では、以下のように反映します。

合計残高試算表【貸借対照表】

【全社合計】
〇BC商事 株式会社

勘定科目名	期首残高
現金	100 16,820,650
預金	110 154,553,200
現金預金計	171 171,373,850
受取手形	130 25,100,000
売掛金	135 4
未収入金	140
有価証券	145 14,100,000
当座資産計	25
商品	160
製品	161 0

上図の「当座資産計」では、「要約科目数」4つに対して、7行の「印刷行数」を設定していますので、上図のように、余りの3行は空白行として印刷されます。

なお、この場合、「印刷行数」は、4行まで減らすことが可能です。（「印刷行数」を4行にすると、上図の3行の空白行がなくなるようになります。）

以上で、合計残高試算表の「印刷行数」と「要約科目数」の関係についての説明を終わります。



要約科目数を減らす場合には、科目の要約をする必要があります。

科目の要約については、文書番号[638]「要約設定(合計残高試算表)は、どのように行うのか？」を参照してください。